

真の「働き方改革」のための「労働基準関係法制」実現に向けた アピール

2019 年にスタートした、「働き方改革」。その目的は、労働時間縮減による働く者の健康確保とともに、長時間労働に依存した企業文化を見直し、生産性向上をはかるものです。

この間、労使は、その目的を実現すべく真摯に議論し、取り組みを積み上げてきました。しかし、実態に目を向ければ、長時間労働などによる痛ましい過労死等はなくなっていないなど、「働き方改革」は道半ばです。

今必要なのは、裁量労働制の拡充など長時間労働につながる規制緩和ではなく、勤務間インターバルの義務化や長期の連続勤務規制の導入など、長時間労働の是正と健康で豊かな生活時間を確保することができる労働時間法制の確立と生産性向上を両輪で進めることです。

「働くこと」は、生活の糧である賃金を得ることのみならず、私たち働く者の自己実現の機会となり生きがいにも通じる、かけがえのない営みです。だからこそ、労働時間法制を含む「働くこと」のルールづくりには、現場で働く者の声が欠かせません。今こそ職場から、地域から、働く仲間の力と声を結集して、真の「働き方改革」のための「労働基準関係法制」を実現しよう。「働かせ放題にNO！働くルールに、私たちの声を」を合言葉に！

2026 年 7 月 16 日

「働かせ放題にNO！働くルールに、私たちの声を」総決起集会